

4 - 21 駿河トラフ南部の海底地形・地質構造

Submarine Topography and Geological Structure in the Southern Part of Suruga Trough

海上保安庁水路部
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

「相模・南海トラフの海底活構造調査」の一環として、昭和55年9月、駿河トラフ南部の海底地形および音波探査による地質構造調査を行った。その概要について速報する。

御前崎海脚南部の陸棚面は外縁水深120～170m、その南に位置する金洲ノ瀬はそれよりも浅い外縁水深70～80mの陸棚相当面をもつ。

御前崎海脚および金洲ノ瀬の駿河トラフ側斜面は比較的急な傾斜を示し、NNE - SSW方向にのびる東落ちの断層帯となっている。この海脚の斜面基部からトラフにかけてほぼ斜面に並走する褶曲構造がみられ、特に東落ちの顕著な逆断層を伴っている。

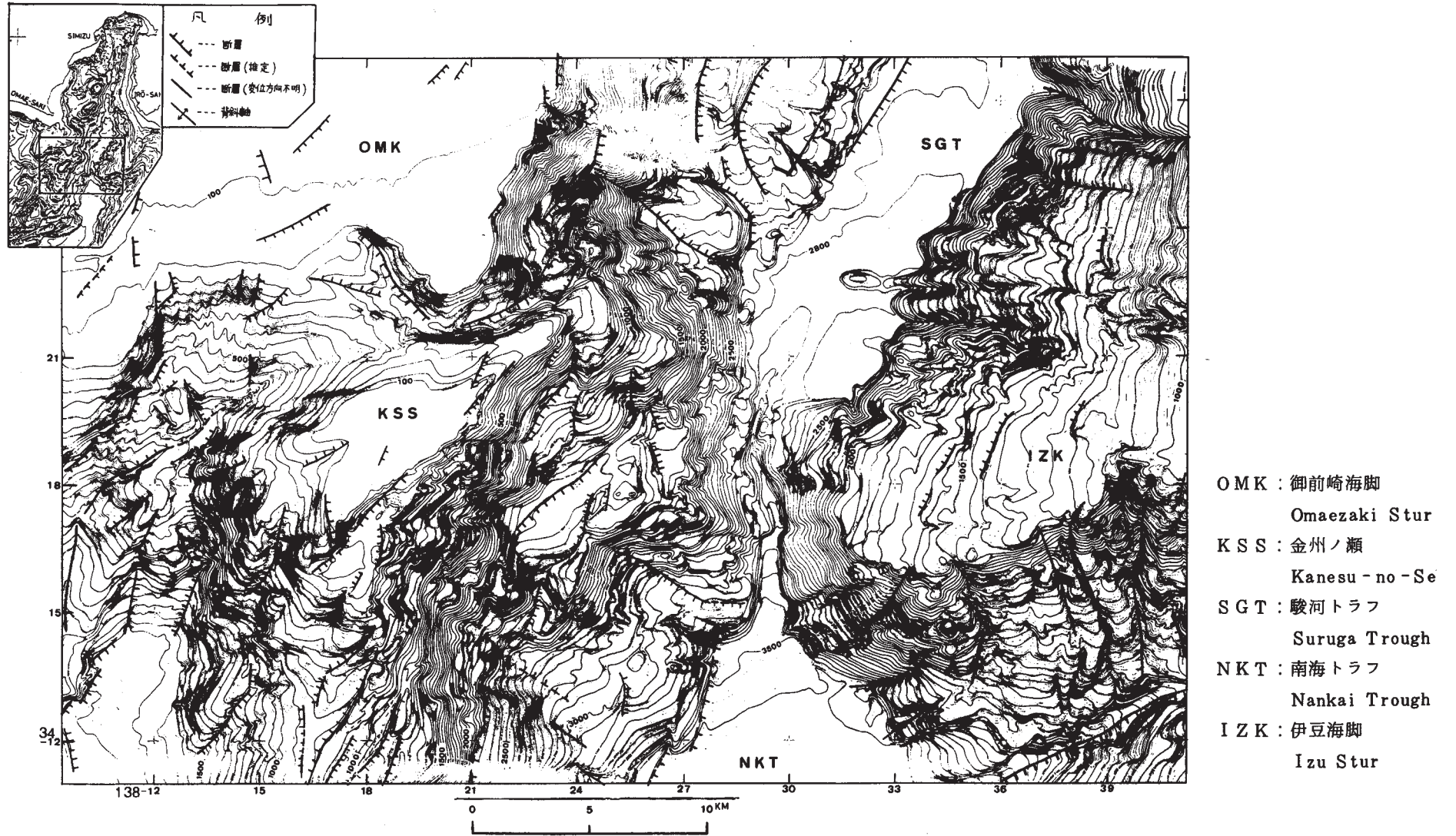
御前崎海脚の中央部から金洲ノ瀬の西側にかけて沈降帯が形成されており、ここにも、駿河トラフに並走するNNE - SSW、東落ち断層系の左雁行配列が見られる。金洲ノ瀬は西側に緩斜面があつて傾動地塊状の曲隆構造の可能性が高く、沈降帯の構造はこの北の石花海に対する石花海海盆の関係に良く似ている。

以上、駿河トラフ西側海域にNNE - SSW方向、東落ちの断層系が卓越していることは、伊豆半島基盤の沈み込みに伴う上盤の構造を特徴づけているように見える。

一方、伊豆半島から南南西にのびる伊豆海脚南部には、東北東から西南西に緩傾斜する幅6～7kmの尾根状の地形が認められ、その延長は駿河トラフと南海トラフとを分ける鞍部を形成している。これは地磁気異常との間に密接な関係が認められ、¹⁾伊豆小笠原海嶺北部の基盤構造を特徴づけている可能性が高い。

参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：駿河トラフ南部の地磁気異常，連絡会報，28（1982），250 - 257.



第1図 駿河トラフ南部の海底地形・地質構造 (速報)

Fig. 1 Submarine topography and geological structure in the southern part of Suruga trough.